

ポスター発表 概要

P-1

楽しむって何？ セラピューティックレクリエーション

マーレー 寛子（平安女子大学学院大学） 茅野 宏明（武庫川女子大学）
岸田 圭代（高槻荘） 田島栄文（甲子園短期大学）

セラピューティックレクリエーションという言葉が、福祉現場に入ってきて久しい。しかし本当に意味を理解し、活用されているかという疑問が残る。今回、このポスター発表の場を借り、全米セラピューティックレクリエーション学会が出したセラピューティックレクリエーションに関する説明のパンフレットを学会の許可を得て、TR研究会のメンバーが翻訳し、日本の現場にできる限り即し、理解しやすいものに作成してみたものを発表させていただく。より多くの人たちがセラピューティックレクリエーションを理解し、現場での活用が広がっていく一つのステップとなることを目的とする。

P-2

興望館学童キャンプに集う学生ボランティアへの研修の効果

五十嵐 美奈（社会福祉法人興望館） 野原健治（社会福祉法人興望館）
高橋 伸（国際基督教大学）

興望館は地域に根ざした福祉を展開する「セトルメント」として、児童厚生施設、保育園、児童養護施設を運営している。青少年健全育成事業である夏期学童キャンプには約百人の小学生と三十人の学生ボランティアが参加し、「遊びの三間」が奪われたと言われている子ども達にとって、生活を共にしながら社会性や人間性、何よりも「楽しむ」ことの喜びを育む大切な場となっている。子ども達の生活背景が複雑になる一方、学生自身も生活・社会体験が不足しており、遊びやゲームを通して楽しむことの意味を実感できていない場合が多い。この為、キャンプ研修は講義型からワークショップやレクリエーションを取り入れたプログラムに移行し、4年前には継続的な研修・ボランティア実践の母体として青年会が形成された。このような継続性のあるボランティア活動と研修の実践は学生たちの自己実現を促し、それぞれの自尊心の向上に貢献しうることが学生たちの感想からうかがえる。